



「多久から発信！SDGs 44」

「田植えをしたよ！」

今日は、田植えをしました。最初は、地面がぬるぬるして、とても難しかったけれど、だんだんできてきたら、さっさとできるようになりました。とてもわくわくしました。

いつも食べているお米でしたが、こんなに作ることが大変だったとは知りませんでした。今度からは、お米を大事に食べたいです。

10月から11月に「稲刈り」があるので、とても楽しみです。



東原摩舎中央校 4年2組
大石 妃菜向



▲田植え体験の様子

連載

多久市の指定文化財(4)

「相浦の球状閃緑岩」[佐賀県天然記念物]

北多久町多久原四三六番地一

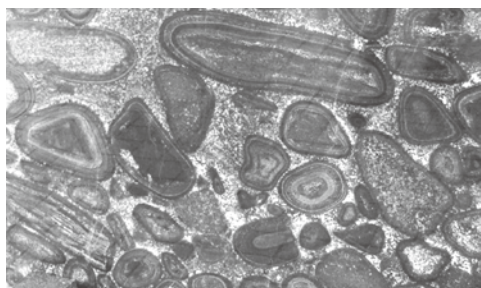
地下のマグマが冷え固まった深成岩の一種で自然がつくり出した岩石です。多久市では北多久町相の浦地区の北、飯盛山の山中に分布することで知られます。相浦の球状閃緑岩の成因や、岩石ができた時期については明確ではありませんが、『佐賀県の地質鉱物』では、時期を白亜紀後期(今から約1億4400万年〜6500万年)

前)頃と紹介されています。球状閃緑岩は、球状花崗岩、球状斑岩とともに球状閃緑岩の構成にあたり、斜長石や角閃石などが同心球状に結晶

(教育振興課)



▶相浦の球状閃緑岩(市役所前庭)



▶研磨された球状閃緑岩

市民文芸

短歌 《麦の芽短歌会 互選》

- ◆地名の戸籍どおりに「多久」を用いたる
市報のもどる日待ちて幾年
尾形 節子
- ◆五月晴れ新茶の香り楽しみて
白き湯呑を選びて注ぐ
川浪 信子
- ◆母の日にピンクのあじさい抱えくる
娘のやさしさと孫の笑顔も
梶原恵美子
- ◆随分と髪に白髪も増えたけど
心のシワは全くないよ
野崎 隆幸
- ◆あら塩と天然水を掌に擦りて
おむすび食めば亡母の恋しき
浦野 嘉恵

俳句 《大石ひろ女選》

- ◆散らばりし遊具を集む子供の日
本村 則子
- ◆百万の薔薇の香に佇つ昼下り
富樫 明美
- ◆涅槃西風父の座右の銘を知る
三塩不二子
- ◆手を通すことなき妣の夏衣
武富 律子
- ◆短夜の真水に開く貝の口
大石ひろ女

川柳 《多久川柳会 互選》

- ◆田植え機も弾む令和の米不足
高塚ちかこ
- ◆せせらぎもいずれ大河へ旅をする
古賀 弘子
- ◆さばれないめだかの学校ガラス張り
田代えみこ
- ◆梅雨に入りおらが季節とカエル達
田中 正春
- ◆川から消えたメダカ値札を付けている
田代まつこ